かがやく明日のために

With You NAGANO

Vol.64
+++編 集+++
With You編集委員
+++発 行+++
長野市男女共同参画センター

長野市男女共同参画情報紙「With You」は、男女共同参画社会づくりに向け、年に3回、市民編集委員が様々な視点から情報を発信しています。今回は、職業選択の多様性や男女ともに働きやすい職場環境について考えます。

男性の職業？ 女性の職業？

以前は男性の職業、女性の職業と思われていた職業も、「男性も女性も活躍できる職業」に変わってきています。

今回は、〝男性が多く占める職業で活躍している男性〟、〝女性が多く占める職業で活躍している女性〟、にお話をお聞きました。

亜細亜印刷株式会社印刷部
早瀬 真夏さん

仕事に就いたきっかけ

高校の進路指導の先生から、亜細亜印刷には同じ高校の卒業生がたくさんいて、その中には技能五輪国際大会で金メダルを取った先輩もいると聞きました。「自分にもチャンスがあるなら、大会に出たい！」という気持ちから入社を希望しました。

研修期間中、いろいろな部署をまわりました。印刷業がなにかもまだ全然わからない状況だったのですが、印刷工場の仕事が合っていると感じたことと、活躍している先輩の姿を見て、「印刷部でやりたいです」と申し出ました。それを快く受け入れてくれた部長や社長に、感謝しています。

仕事の魅力

亜細亜印刷は組版を売りにしていて、書籍づくりに力を入れています。そのため商業印刷より書籍が大体を占めています。

今は、機長として工場内の機械の1台を動かしています。

紙は生き物と言われていて、温度や湿度によって出来栄えに差が出たり、トラブルが生じます。また、機械の癖もあるので、それらを把握しながら仕事をすることに印刷の奥深さ、おもしろさを感じます。機械と一体になって仕事をしているのが感じられて、いい印刷物ができると「一緒にいい仕事したね」と、嬉しくなります。

また、お客様から「よかったよ」と言ってもらえた時、特に難しい仕事だった時は、やっていてよかったなとすごく思います。

技能五輪に出場して

技能五輪に出たのは入社3年目の2017年です。参加者は22歳以下という年齢制限があり、開催も2年に1度なので、出場できるチャンスが限られています。国内大会の優勝者が、国際大会へ進みます。この年は、アブダビで開催されました。出場者11人中5人が女性だったのは、意外でした。

結果は4位だったので、あまり満足していないです。やはり悔しさがありますね。

この会社に入り、国際大会に出られて、技術的にも人間的にも成長できました。同世代でこんな経験をしている人はそうそういないので、とても恵まれていることだと思います。

女性でよかったこと 苦労していること

当初は、男性ばかりで、男臭く汗臭く…という印象がありました。自分が明るい性格だというのもあるのですが、女性がいた方が現場に会話があり、雰囲気がよくなるのかなと思います。

もちろん仕事には真剣に取り組んでいますが、張り詰めた空気の中よりは、笑顔で和やかな中でできればいいかな、と。「男性同士だったら、衝突するかな？」と思う場面でも、提案に耳を傾けてもらえたり、一緒に考えてもらえたりするのは、女性でラッキーだったかなと思います。

苦労は、やはり体力面ですね。印刷に使う紙は大きくて重いので、動かすのが大変です。男性の手を借りたり、補助の機械を使うことがあります。

あとは、「女の子だからできないだろう」みたいな目で見られるのも少しはありますね。他社の見学に行くと、女性が全然いないんです。だから「女の子なのにすごいね」と言われることも結構あって。悪い意味で言っているのではないのはわかっているのですが、違和感はありますね。

同じ業界を目指す後輩に向けて

「自分のように」とは言わないですが、同じような経験、自分が見た景色を見てほしいなと思います。「女だから」と臆することなく、どんどん前に出てやってほしいです。

【上司からのコメント】
園長　小池 伸幸さん
不得意な事もあるでしょうが、女性の先生に引けをとるということは全くないです。子どもたちにも好かれています。
歌の声質が違ったり、体が大きく力もあって子どもを軽々抱き上げられたりと、女性とは違う特徴がある。男女両方の先生がいることで、保育の幅が広がり、子どもたちにもいい影響があるような気がしています。

大豆島保育園　保育士
市川 裕也さん

【上司からのコメント】
印刷部部長　大塚 成二さん
女性がいることで職場の活性化になっています。例えば、「力仕事で劣るところがあるかもしれないけど、それをどう補っていくか」など、不可能があるなら可能にしていこうという話をしています。ほかには、男性が女性を気遣うようになるので、他者のことを気遣えるという成長につながっています。

仕事に就いたきっかけ

もともと小さい子どもたちを相手にするのが好きだったんです。高校の進路を決める時はまだ保育士になろうと思っていたわけではなく、どの仕事についている姿も想像できなくて。

そんな時、中学の職場体験でこの園を訪問したことやテレビドラマで男性保育士が出ていたのを思い出し、それが保育士になろうと決心したきっかけです。

周囲・家族の反応

理数系の科目が得意だったので「進む道が真逆だね」と、かなり周りから言われていました。

親から反対されたことはないです。ただ、「自分で選んだからには、頑張れ。どの仕事についてもそうだけど、険しい道になるのは覚悟して進めよ」とは言われました。

短大時代の話

一学年80人のうち男性が15人ほどいました。保育士に進むという同じ仲間に会えたので心強かったのですが、いざ、保育士になることが近づいてくると、一生の仕事としてやっていけるか不安がありました。でも、「後戻りはしないぞ」という気持ちで進みました。

仕事の魅力

今は、3歳児の担任をしています。子どもの成長に立ち会えるのは保育士ならではの魅力の一つです。昨日までできなかったことが急にできた瞬間、「すごいじゃん！」ってなりますね。

また、初めて年長児のクラスを卒園させ小学校へ送り出した時は、保育士をしていてよかったと心から思えた瞬間でした。

男性でよかったこと 苦労していること

今は男性保育士が3人いますが、最初は自分一人だったので、良くも悪くも注目してもらえて。名前もすぐ覚えてもらえるし、こちらから何もしなくても子どもたちが寄ってきてくれるのは嬉しかったですね。

女性だと小さい頃からピアノを習っている人が多いのですが、自分は短大に進んでから始めたので、クラス間で差が出ないよう、子どもたちのためにいっぱい弾けるようにしています。

あとは発表会の衣装を、どうしたらかわいくなるかわからない。髪の毛を結ぶというのも大変ですね。でも、困っているとすぐ声をかけてくれる先生ばかりで、相談しやすい環境です。

男性が担任ということで、保護者の方から心配の声をいただいたことはないのですが、ご心配があると踏まえた上で対策をしています。

例えば、お昼寝の時間に、子どもたちの中で男性保育士が一人にならないようにしたり、女性に比べて声が大きかったり力もあったりするので、子どもたちに注意する時に気を付けています。男性ということがマイナスにならないよう、少しでもいいイメージになるように取り組んでいます。

保育士を目指す後輩に向けて

女性が多いイメージの保育の仕事を選択する中で、男性なら抱く悩みがあると思います。でも、子どもが好きで、子どもの成長を見守る保育士に少しでも魅力を感じているのであれば、まずは一歩踏み出してみることが一番かなと思います。その不安は、いくらでもあとから解消していけると思いますし。

また、長野市では男性保育士の研修会があり、「こんなにいるんだ」と驚きます。男性ゆえの苦労談とかアドバイスがもらえるので、心強いです。

保育士の世界で待っているので、どの園にいても一緒に頑張っていきましょう。

お問い合わせ 長野市男女共同参画センター
☎026-237-8303 〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1
danjo-c@city.nagano.lg.jp https://www.city.nagano.nagano.jp/
人権・男女共同参画課のウエブサイトでは、「With You」のバックナンバーがご覧いただけます。

男女共同参画情報紙「With You」の紙面づくりにご協力いただける編集委員を募集しています。詳しくは、広報ながの3月号（3月1日発行）をご覧いただくか、長野市男女共同参画センターにお問い合わせください。（次回は7月号に掲載予定です）